

被災の現状とこれから

小野 團三（桐生東部教会牧師）

3月11日の東日本大震災の発災より、五ヶ月が経過しました。教会は、震度6弱の今までに経験したことのない大きな揺れによる被害を建物全体に受けました。当初、地震の影響はそれほどでもないか感じておりましたが、大宮教会の松下設計士に専門家の立場から建物診断をしていただき、被害の大きさに改めて気づかされました。その後、教区の旧四役、生地地区長、秋山議長、飯塚副議長、教団の救援対策本部の委員の方々が教会を問安してくださり、何よりもの励ましとご助言をいただき一同心より感謝しております。



東日本大震災の地震と津波による甚大な被害、福島第一原子力発電所の放射線被害の影響を直接に受けている方々のことを考えますと、静かに祈りつつ自力で教会を建て直すことの意味を感じておりましたが、現在、関東教区、日本基督教団からのご支援をいただきまして復旧、復興を考えております。教会が地域の皆さんに取りまして安心できる場所であり、いつも変わることなく大切に礼拝を守り続ける場所でありたいと願っています。

今後の計画については、以下の通りです。

修繕の項目と期間 2011年9月～2012年3月

- ①教会エレベーターの修理： 3月11日の東日本大震災による部品損傷、交換。8月中。
- ②教会建物本体（1975年建築の4階建て鉄筋）と増築部分（1999年建築の3階建て鉄骨造り）のつなぎ目部分が地震の影響で、ぶつかり、ずれ合い大きな損傷が出ました。全体的な修繕を進めるために、工事はまだ未着工です。9月より修繕着工予定。
- ③本体建物4階牧師館の排水管と修繕： 3月11日の地震とその後の余震の影響で4階住居部分の排水が2階、3階に水漏れを起こしています。住宅の一部の排水の使用停止。建築後36年目の建物の経年劣化の状態に度重なる揺れの影響でダメージを受けてしまいました。内部排水管の修繕は、大掛かりなものになり、室内の造り替えに関係することとなります。関東教区のご指導をいただき教区・教団のご支援の内に10月より2012年の3月まで牧師家族住居を近隣のアパートに移し、期間内に工事を行う予定です。
- ④教会内アスファルト駐車場の陥没： 震災後に教会敷地内の駐車場に直径30cm程の陥没が生じ、2m四方を掘り起こしアスファルトで固めました。駐車場の敷地内各所が沈んでいる所があり、凸凹のないように全体的にアスファルトを敷き直す予定です。

被災の現況を伝道・宣教の砦としての教会の新しいチャレンジの時として捉え、復興を目指して心と力を合わせ歩いて行く所存です。どうかお祈りのご支援をお願いいたします。



新潟地区からのボランティア

西川 幸作（三条教会牧師）

8月8-11日(月～木)にかけて、新潟地区教職・信徒の3名で宮城県東松島市東名(とうな)地区にボランティアに行きました。

私たちは東名地域の海岸部に近い民家で、リフォームをする前段階として、浸水してダメになった壁(石膏ボード)を取り壊したり、壁に付いたゴミを取り除いたり、釘を抜いたりといった作業を他の参加者とともにしました。作業の中でも大変なものは、民家の床をはがして3月の津波のときからたまっていた海水をくみ上げて、バケツリレーのようにして外に捨てる作業でした。被災地で感染症にかかることがあるという情報を事前に得て、ゴム手袋や長靴を用意していましたので、それらを用いて作業をしました。東名地域は未だ他の地域に比べて、復旧が遅れているように思えました。東北教区、奥羽教区でのボランティア報告を見させていただいたりする中では、比較的都心に近いところは早めに復旧作業がなされているということでしたが、少し都心から離れた地域では、どうしても遅れがちになっているということを実感しました。

また、ボランティア活動の拠点となる教会から遠い場所ということもあり、なかなかボランティアがその現場で作業をするということも比較的困難であったと思えました。

さらにいえば、近くに日本三景の一つである松島があり、そこらは観光客で賑わっていた雰囲気があり、その松島との東名の姿の間にあるギャップを感じました。本来は東名もすばらしい眺めが続く地であるということをおぼされました。

私たちボランティアにできることは、ほんの僅かなことですが、この地とつながり、かかわり続けることが大切であると思われました。

東名に当初からずっとかかわり続けている日本キリスト改革派のグループがあります。その皆様は、毎日集うボランティアの調整、派遣をされ、現地の被災者と連絡を取って作業内容を決める等、つまりボランティアコーディネーター的な活動をしておられました。ご自分の時間を裂いて、1ヶ月もしくは数ヶ月も被災地にいて、かかわり続けておられました。そのお姿に私たち新潟から参加した3人は皆、深く感動をいたしました。この東名に住み続けることを決意した人々に寄り添うようにして、ともに歩むようにしておられたのです。時にはご自分のお車を用いられてボランティアや道具の運び専用にしておられました。作業後の泥がつくのですが、それでも支援のために用い続けられておられたのです。

私たちとともにボランティア作業をしたのは、在日大韓教会のグループ、日本キリスト教会のグループで、この方々とは宿泊先の仙台北教会(小西望牧師)でともに過ごしました。また、現地では、日本国際飢餓対策機構、クラッシュジャパン等のグループとともに作業をいたしました。ボランティアの中には、お住まいが近隣の方々から、青森や名古屋からといった遠方から来られたという方々もおられました。

このボランティアの直前、新潟県や福島県では大雨による被害がありました。私の住む三条市も多くの被害が出ました。私はその被害が出た後(東名へボランティアに行く一週間前)、市内で被害にあった民家でボランティア作業をさせていただきました。その作業は、東名と同じように泥だしであったり、水に使った家財道具などの運び出しでした。津波による被害ではなかったものの、大雨による浸水によって、大きな被害が出ました。川の上流部では田畑が浸水や土砂に埋まるなどの被害が多くありました。

被災するということが、決して遠い地域での話ではなく、身近な話であることを実感しました。私たちは、自然の中で住む以上、何らかの被害にあうということをおぼされました。これからも、被災地とともに歩み続けたいと願います。